



2020年12月期 決算説明資料

第2四半期

2020年8月17日（月）
株式会社ワールドホールディングス
東証1部（2429）

目次

I. 2020年12月期 第2四半期決算概要

- ・ 決算サマリー … P3
- ・ セグメント別業績概況 … P4
- ・ 各セグメント詳細 … P5
- ・ 財政状態 B/S … P13
- ・ キャッシュフロー … P14

II. 2020年12月期 業績見通し 及び 新型コロナウイルス感染症の影響と今後の展開

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響について(全体像) … P16
- ・ 2020年12月期 通期業績見通し … P17
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響と今後の展開 … P18
- ・ 安定経営戦略の継続 … P21
- ・ 株主還元 … P22

III. Appendix

- ・ ワールドホールディングス会社案内 … P24

I . 2020年12月期 第2四半期決算概要



決算サマリー

- 複数業種の事業ポートフォリオによる安定経営体制が奏功し、新型コロナウイルス感染症の影響を複数事業でカバーし最小限に（⇒新型コロナウイルス感染症の影響については17ページ以降を参照）
- 人材・教育ビジネスでの人材育成戦略や構造改革、及び綿密なリスク管理を行ってきた不動産ビジネスにおける計画以上の物件の引渡し等により、利益面において計画比上振れ

(単位: 百万円)

	2019/2Q 実績	2020/2Q 予算	2020/2Q 実績	対予算		前年同期比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	66,827	73,566	70,844	△2,722	△3.7%	+4,016	+6.0%
営業利益	2,529	2,122	2,773	+651	+30.7%	+244	+9.6%
経常利益	2,529	2,733	2,872	+139	+5.1%	+342	+13.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,685	1,517	2,497	+979	+64.5%	+812	+48.2%

セグメント別業績概況

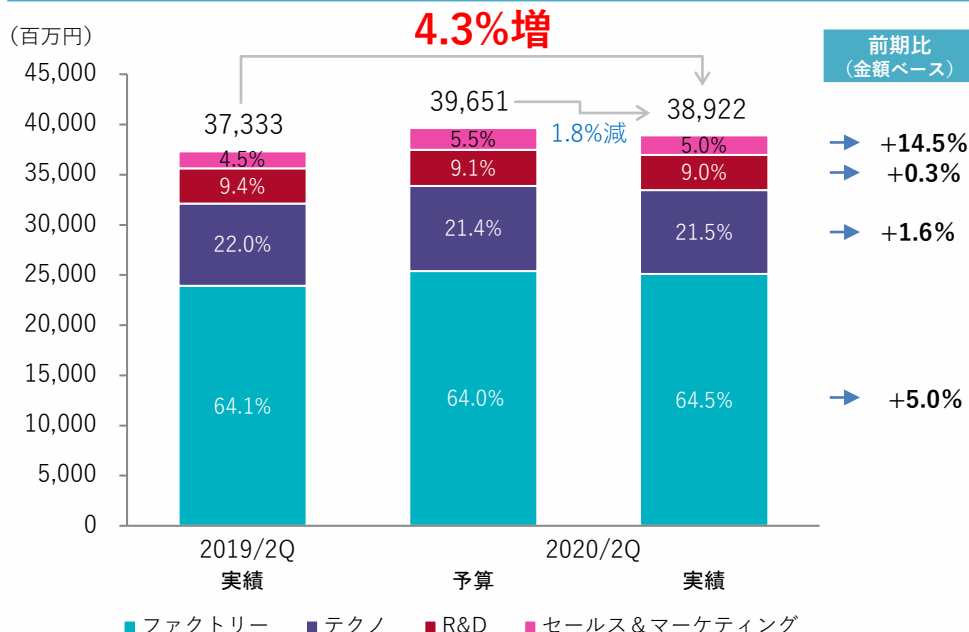
単位：百万円

			2019/2Q 実績	2020/2Q 予算	2020/2Q 実績	対予算		前年同期比	
						増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)
人 材 ・ 教 育 ビ ジ ネ ス	ファクトリー事業	売上高 セグメント利益 (利益率)	23,913 1,137 (4.8%)	25,380 962	25,111 957 (3.8%)	△269 △5	△1.1 △0.6	1,198 △180	5.0 △ 15.9
	テクノ事業	売上高 セグメント利益 (利益率)	8,220 774 (9.4%)	8,496 563	8,353 886 (10.6%)	△142 323	△1.7 57.3	133 112	1.6 14.5
	R & D 事業	売上高 セグメント利益 (利益率)	3,504 263 (7.5%)	3,603 296	3,515 381 (10.8%)	△87 84	△2.4 28.7	11 117	0.3 44.4
	セールス &マーケティング事業	売上高 セグメント利益 (利益率)	1,695 △33 —	2,171 △54	1,941 3 (0.2%)	△229 57	△10.6 —	246 36	14.5 —
	計 (参考)	売上高 セグメント利益 (利益率)	37,333 2,142 (5.7%)	39,651 1,768	38,922 2,228 (5.7%)	△729 460	△1.8 26.0	1,589 85	4.3 4.0
不 動 産 ビ ジ ネ ス	不動産事業	売上高 セグメント利益 (利益率)	20,377 1,227 (6.0%)	26,101 1,317	25,541 1,835 (7.2%)	△559 518	△2.1 39.4	5,164 608	25.3 49.5
情 報 通 信 ビ ジ ネ ス	情報通信事業	売上高 セグメント利益 (利益率)	6,999 48 (0.7%)	5,619 115	5,252 275 (5.2%)	△366 159	△6.5 138.0	△1,746 226	△ 24.9 462.9
そ の 他	その他事業	売上高 セグメント利益 (利益率)	2,117 196 (9.3%)	2,193 112	1,126 △369 —	△1,066 △482	△48.6 —	△990 △566	△ 46.8 —
合 計		売上高 消去又は全社 営業利益 (利益率)	66,827 △1,086 2,529 (3.8%)	73,566 △1,191 2,122	70,844 △1,196 2,773 (3.9%)	△2,722 △4 651	△3.7 — 30.7	4,016 △110 244	6.0 — 9.6

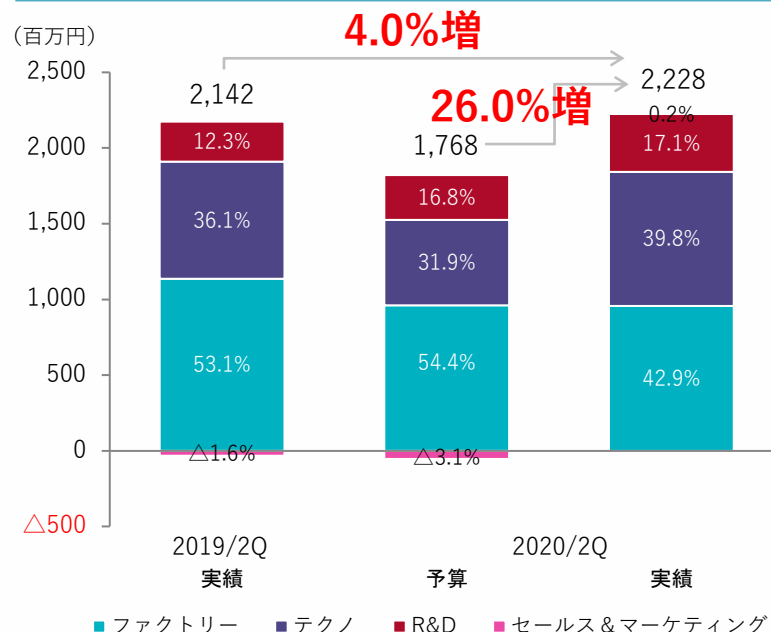
人材セグメント全体の売上高・セグメント利益の事業別構成比

- 人材育成に注力し、ブランド力（集まる力）を高める中長期的目線での施策推進を継続
- 人材育成の結果、スキルアップ・シフトアップが実現し増益に寄与
- 新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、現時点で最小限にとどめる

◆ 売上高 構成比



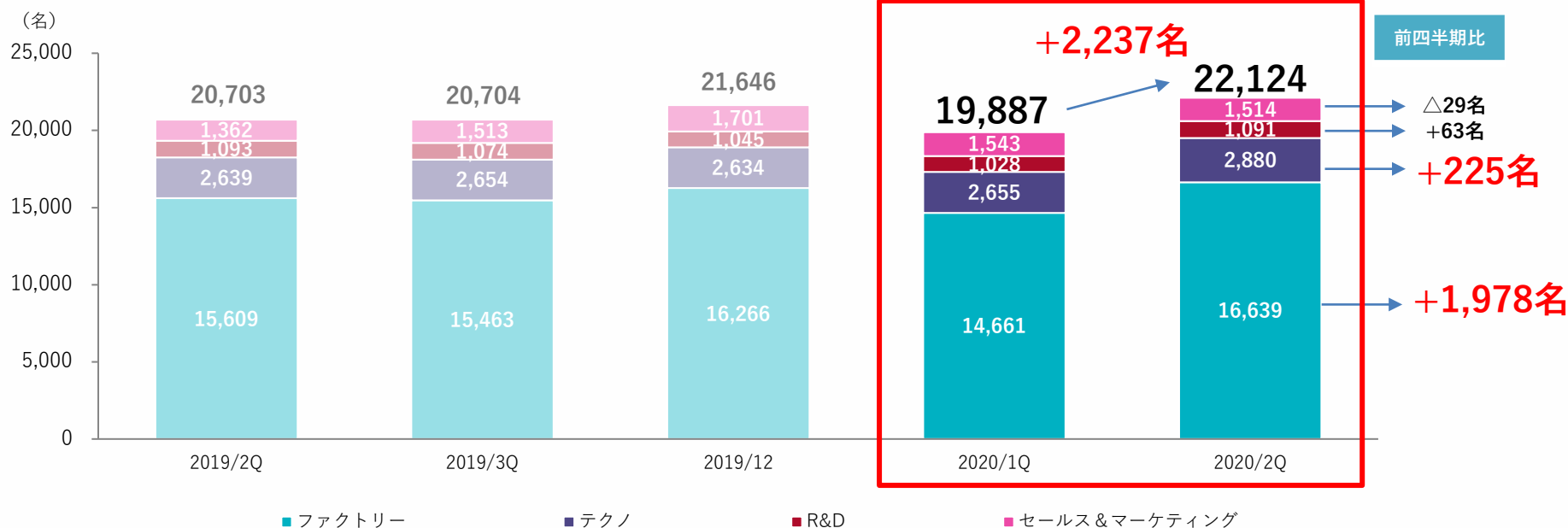
◆ セグメント利益 構成比



人材セグメント全体の在籍数推移

- ファクトリー事業は、5G関連、物流分野等が好調の中、地元採用やコンソーシアムモデルでの人材確保を進めたことから増加
- テクノ事業は、注力してきた人材育成が奏功し、研修生の配属が計画通り推移し増加
- セールス&マーケティング事業は、在籍数は横ばいも、構造改革により成長軌道へ回帰

◆ 在籍数※（3ヶ月平均）の推移

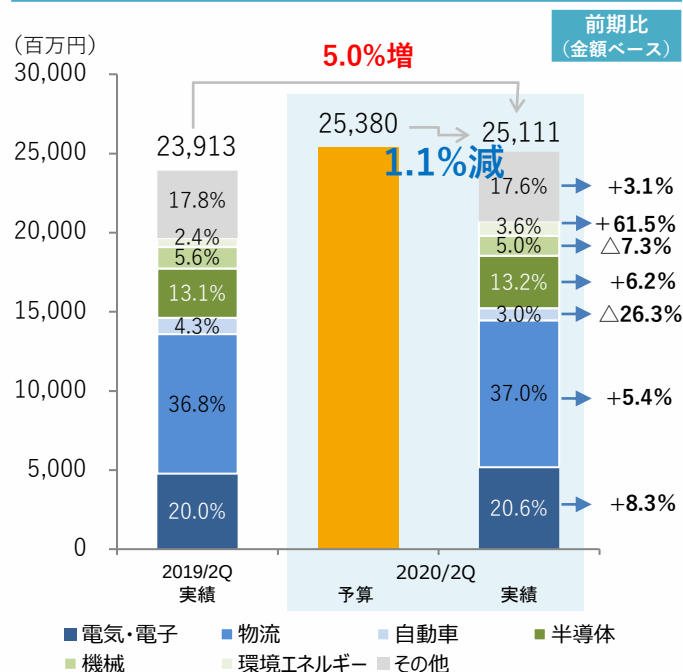


※ ファクトリーの在籍者数については他社受入の外部人員を含む

ファクトリー事業

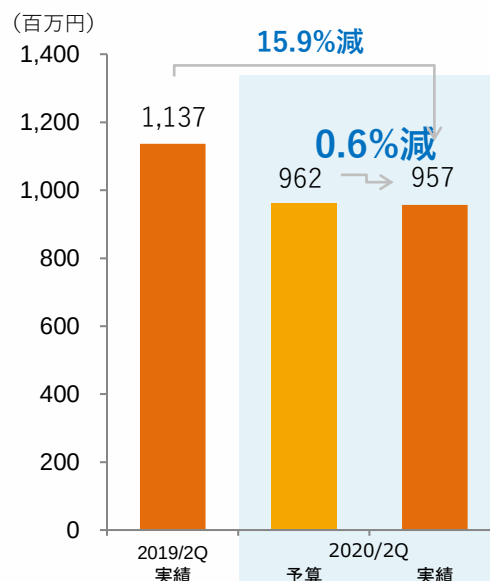
- コロナ禍により自動車部品関連等の一部の顧客で稼働停止があったものの、戦略的に取引拡大を進めてきた5G関連をはじめとした半導体関連が好調
- 物流分野は巣ごもり消費によりオーダー増加、また新拠点開拓のための人材育成を推進
- 雇用の維持、クライアントの安心感を最優先にコロナ対策を推進

◆ 売上高 構成比

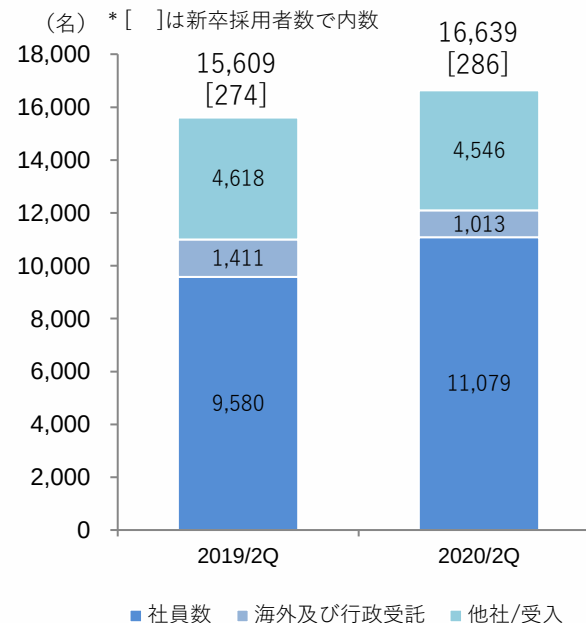


※売上高の予算は分野別に開示しておりません

◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)

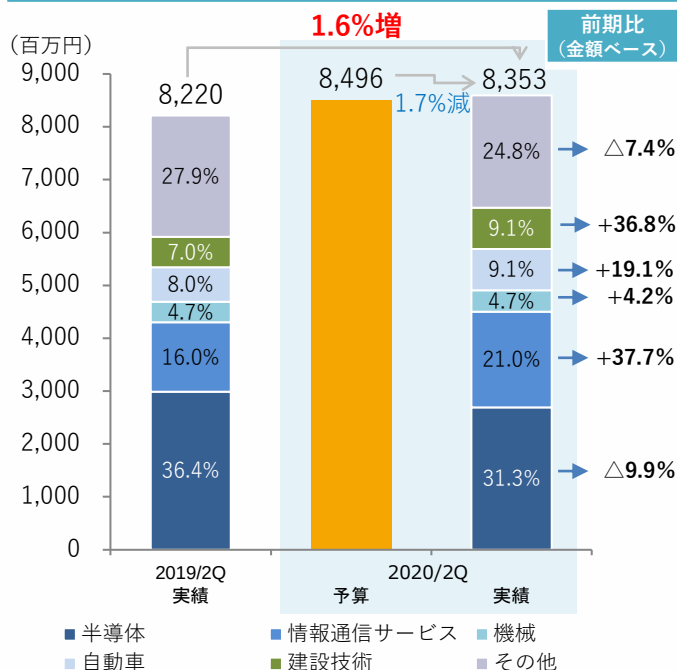


※在籍は3か月平均 他社受入の外部人員を含む
※在籍数は現業社員のみ

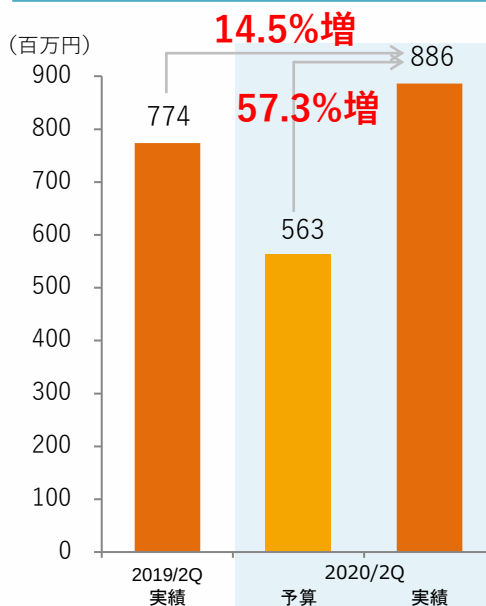
テクノ事業

- コロナ禍で市場鈍化の傾向はあるものの、半導体関連等が拡大基調
- 投資してきた人材育成によるスキルアップ・シフトアップの実現が、着実なチャージアップへとつながり利益面で上振れ
- 経験者採用に注力し、既存社員を含めたさらなるスキルアップ・シフトアップを目的とした新たな研修プログラムを追加実施

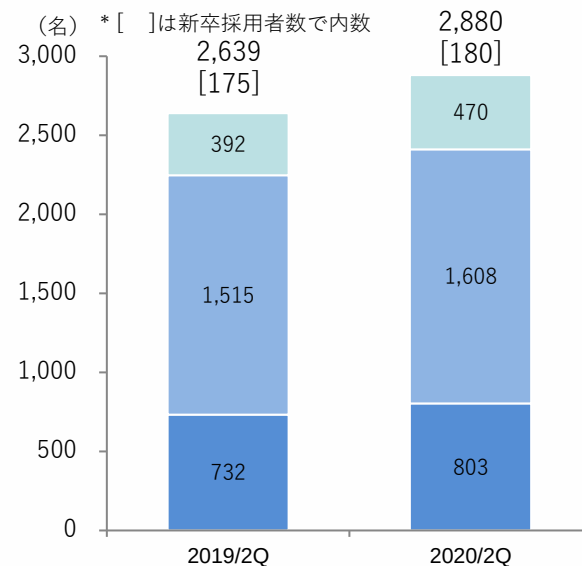
◆ 売上高 構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



■ 生産技術在籍 ■ 設計開発在籍

■ 建設/リペア他技術者 在籍

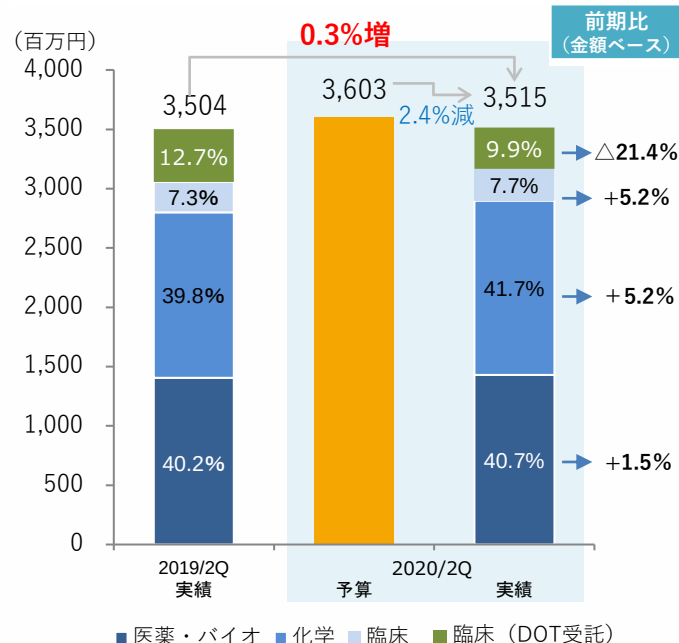
※在籍は3か月平均

※在籍数は現業社員のみの数字

R&D事業

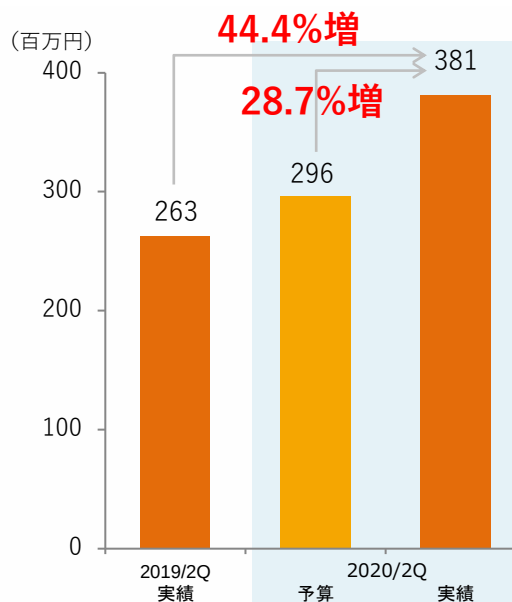
- 限定的ながら新型コロナウイルス感染症に係る治験等のオーダー増に対応
- 研究者派遣部門も一般的な医薬品流通の増加で分析や医薬品等の分野で特需的要素が発生
- 東京大学・京都大学・大阪大学・東京都立大学等の提携大学との共同研究ラボを通じた人材育成体制が整っていることから採用母集団も拡大

◆ 売上高 構成比

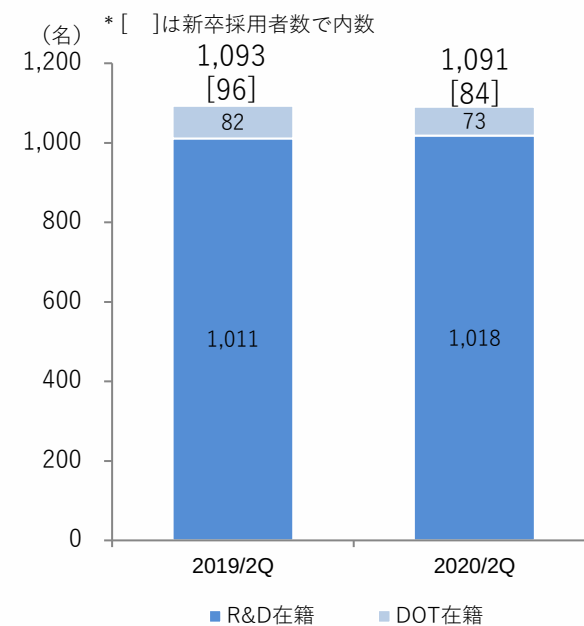


※売上高の予算は分野別に開示しておりません

◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)

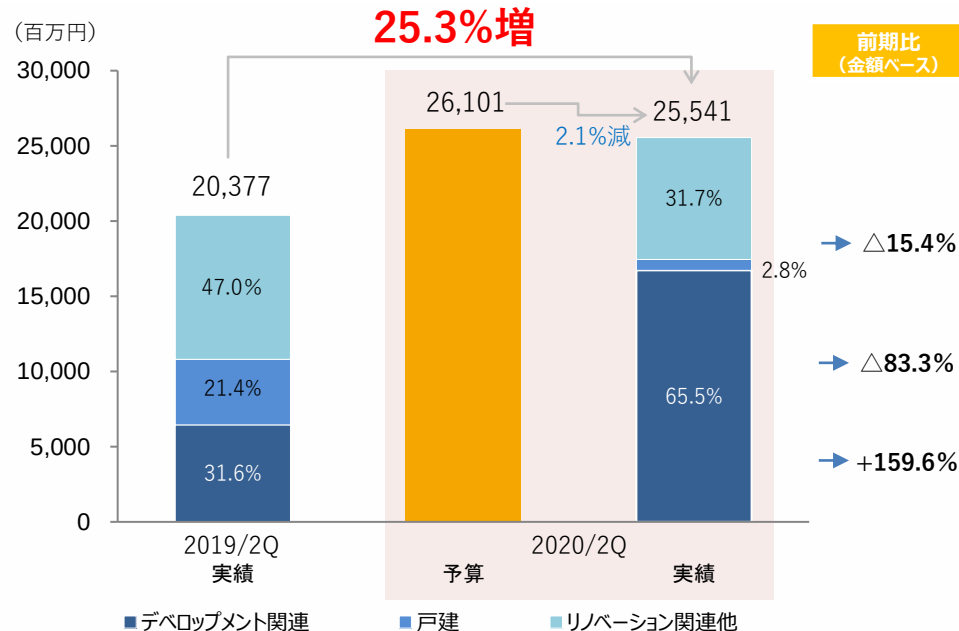


※在籍は3か月平均
※在籍数は現業社員のみの数字

不動産事業

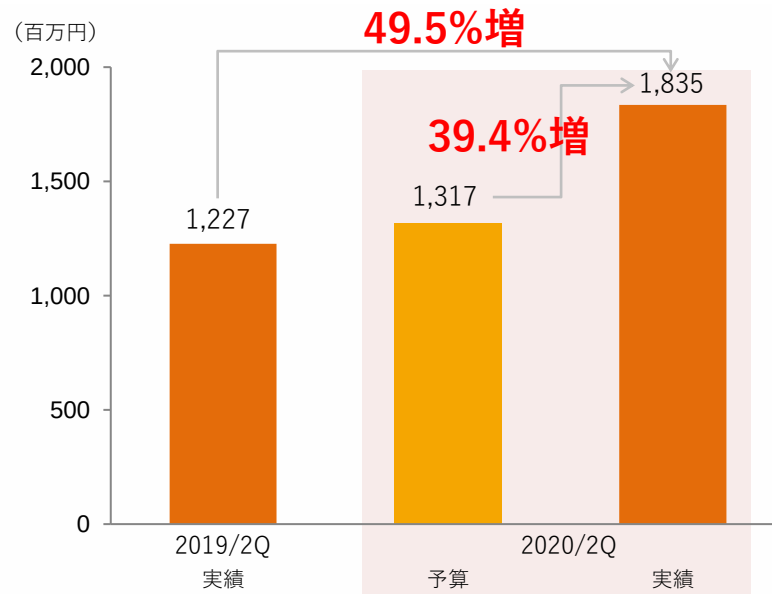
- 数年前から市況変動を見据え対策を重ねる中、事業用地の引渡しが増加し計画以上に推移
- 外部環境を十分に考慮し、綿密なリスク管理を今後も継続。仕入れに関しては慎重な姿勢を維持。一方で、外部環境の反転に備えアセットマネジメント等金融関連のビジネス基盤の構築等を推進

◆ 売上高 構成比



※売上高、およびセグメント利益の予算は業態ごとに開示しておりません

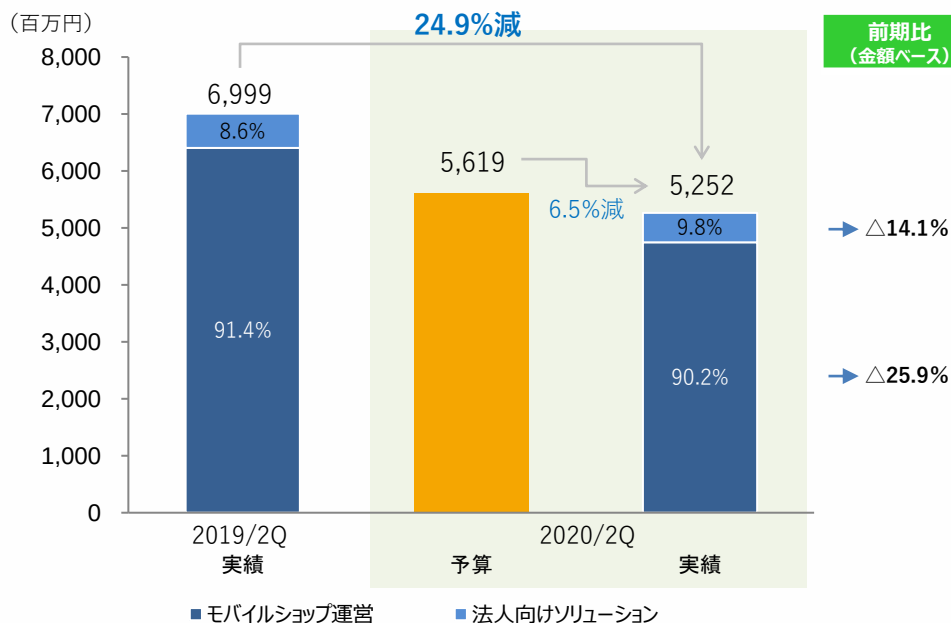
◆ セグメント利益



情報通信事業

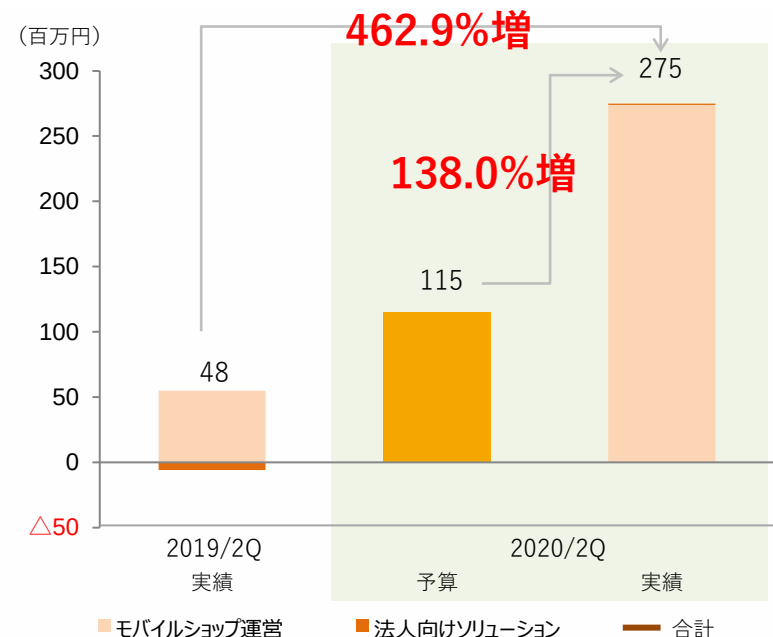
- 前期まで実施してきたショップ事業の強化に重点をおいた施策・投資（組織・店舗整備、接客力・知識力向上に向けた人材育成等）により、一店舗当たりの収益が改善
- コロナ禍による店舗の稼働制限等はあったものの、現状の影響は限定的
（注：本セグメントの第2四半期累計期間は2019年10月～2020年3月）

◆ 売上高 構成比



※売上高、およびセグメント利益の予算は仕向けごとに開示しておりません

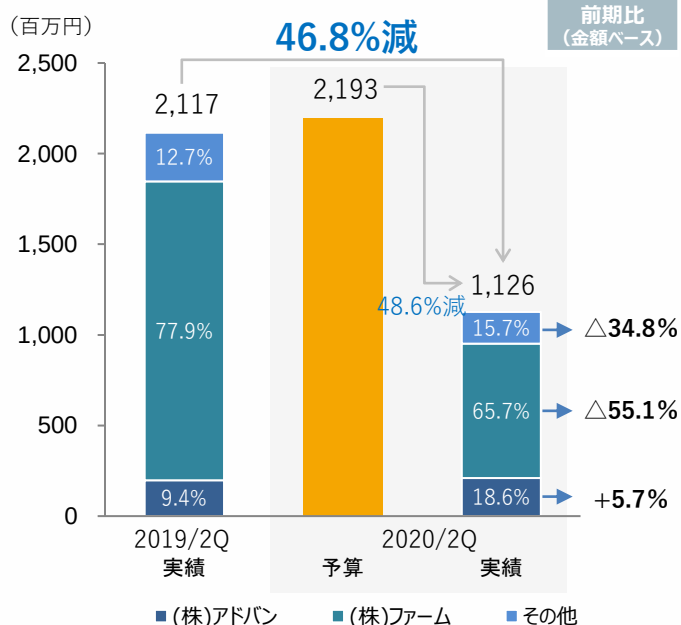
◆ セグメント利益



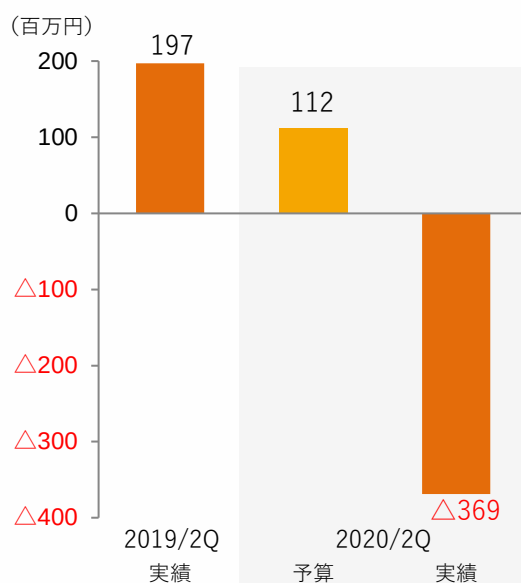
その他事業

- 農業公園関連は、コロナ禍の影響で最大の繁忙期である4～5月に各自治体からの要請で休園を余儀なくされたこと、その前後においても一部コンテンツの営業自粛等があり大きな痛手
- ただし、通常のテーマパークと違い自然を主とした屋外施設であるため早期回復傾向

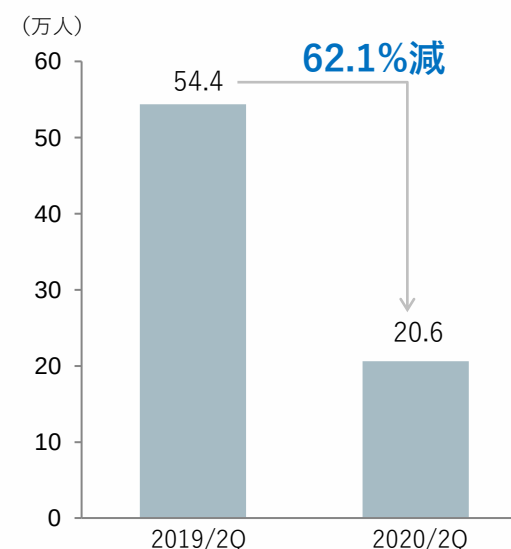
◆売上高 構成比



◆セグメント利益



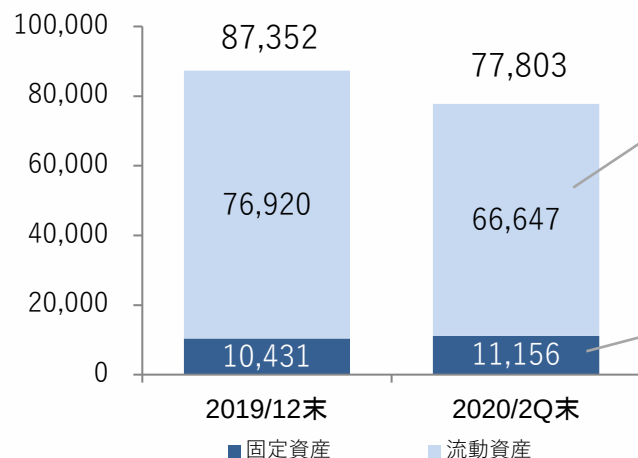
◆入園者数



※売上高、およびセグメント利益の予算の内訳は開示しておりません

財政状態 B/S

- 綿密なリスク管理の下、不動産の保有を減少させており、財務体質は良好

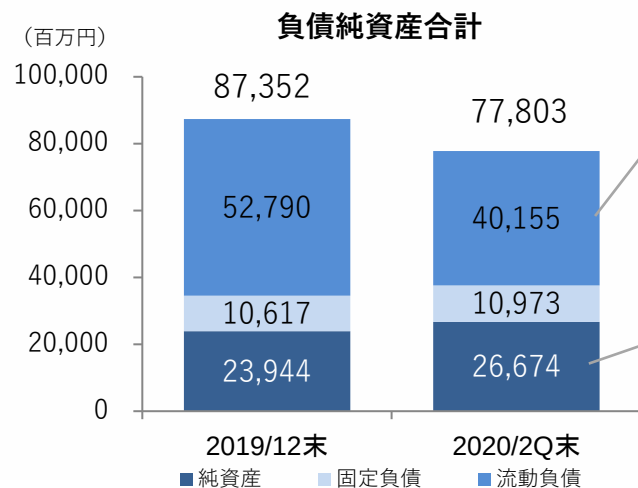


流動資産 66,647 (△10,273)

- ・現金及び預金 +1,416百万円
- ・販売用不動産 △6,749百万円
- ・仕掛販売用不動産 △3,118百万円

固定資産 11,156 (+724)

- ・投資有価証券 +1,135百万円



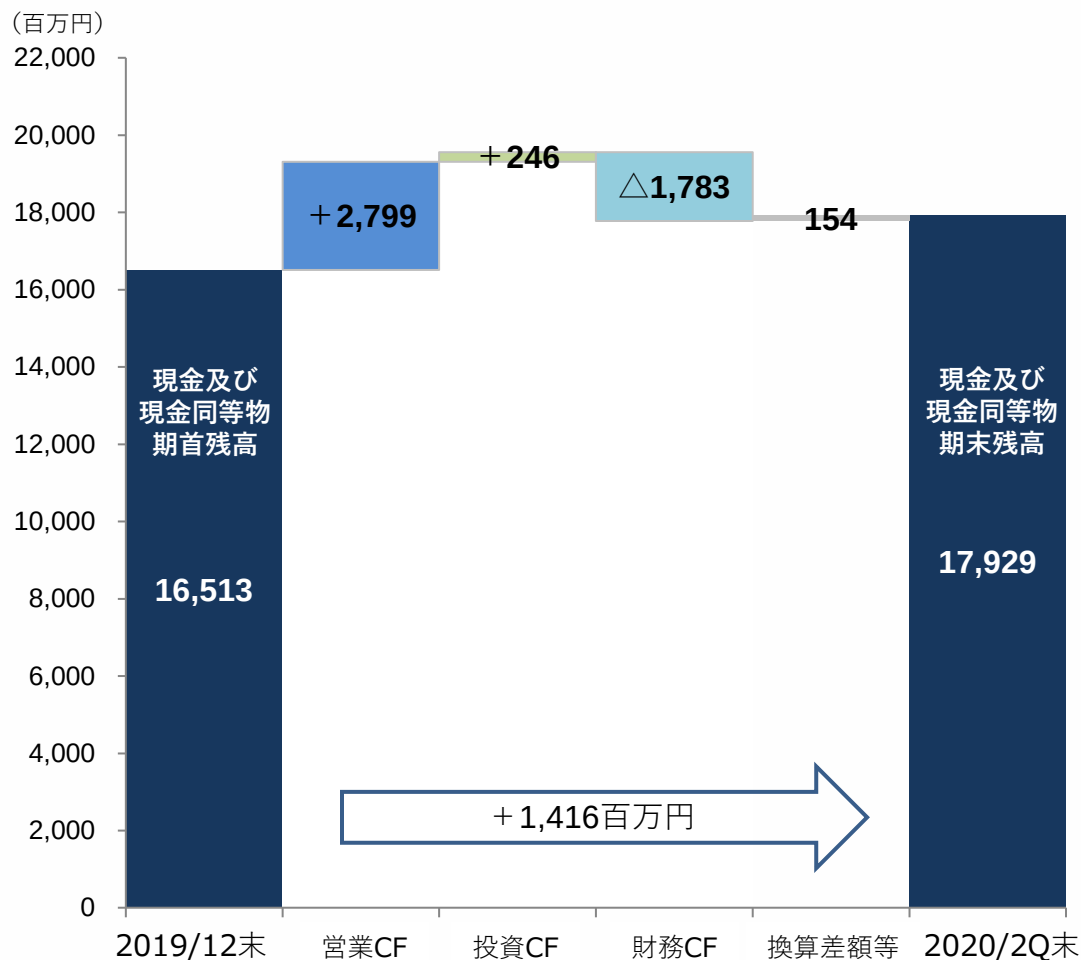
負債 51,128 (△12,279)

- ・不動産事業未払金 △489百万円
- ・短期借入金 △2,506百万円
- ・前受金 △8,326百万円
- ・長期借入金 +314百万円

純資産 26,674 (+2,730)

- ・資本金 +453百万円
- ・資本剰余金 +455百万円
- ・利益剰余金 +1,644百万円

キャッシュフロー



営業CF

- ・税金等調整前四半期純利益 3,051百万円
- ・売上債権の増減額 (△:増加) 875百万円
- ・販売用不動産の増減額 (△:増加) 7,579百万円
- ・前受金の増減額 (△:減少) △8,327百万円
- ・法人税等の支払額 △1,074百万円
- ・法人税等の還付額 736百万円

投資CF

- ・非連結子会社株式の取得による支出 △1,230百万円
- ・有形固定資産の取得による支出 △535百万円
- ・無形固定資産の取得による支出 △17百万円
- ・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 2,209百万円

財務CF

- ・短期借入金の純増減額(△:減少) △1,224百万円
- ・長期借入れによる収入 2,962百万円
- ・長期借入金の返済による支出 △3,480百万円
- ・配当金の支払額 △887百万円

Ⅱ. 2020年12月期 業績見通し 及び 新型コロナウイルス感染症の影響と今後の展開



新型コロナウイルス感染症の影響について（全体像）

複数事業・複数業種の強みを活かしリスクを分散

第2四半期累計期間までの状況

コロナ禍における業績動向まとめ
（矢印は利益の前年同期比イメージ）

人材・教育ビジネス 	ファクトリー事業	半導体・機械		物流		自動車部品	
	テクノ事業	半導体		情報通信		自動車	
	R&D事業	研究者派遣		治験		建設	
	セールス & マーケティング事業	アパレル関連		コールセンター		軽作業	
不動産ビジネス 	デベロップメント  リノベーション 						
情報通信ビジネス 	モバイルショップ 						
その他 	農業公園 						

2020年12月期 通期業績見通し

複数業種の事業ポートフォリオによるリスク分散、及び従前から綿密に行ってきたリスク管理により新型コロナウイルス感染症の影響を最小限にとどめ、利益は計画比で上振れておりますが、先行きに関しては依然不透明な状況であることから業績予想は変更しておりません。
 なお、業績予想を見直す必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

単位：百万円、%	2019/12 実績	2020/12 見通し	前期比	
			増減額	増減率
売上高	136,319	159,682	23,363	17.1
営業利益	4,730	7,851	3,120	66.0
経常利益	4,805	8,338	3,533	73.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,956	5,601	2,644	89.5
一株当たり利益（円）	175.59	332.60	157.01	89.4
一株当たり配当金（円）	52.7	99.8	47.1	89.4

新型コロナウイルス感染症の影響と今後の展開①

人材・教育ビジネス 一部でマイナス影響があるものの強みである業種分散によりカバー

現状

マイナス影響

- 一部で稼働停止が発生（自動車部品関連等）
- 人材流動化の制限が発生（県外からの配属制限等）
- 新規オーダーの獲得が厳しい状況下、一部事業で待機人員コスト増が発生
- ソーシャルディスタンスによる生産効率悪化、テレワークによる稼働時間減の影響あり
- メーカーの下期の生産計画の修正の可能性等、不透明要因は依然として残っている

プラス影響

- 巣ごもり消費で物流分野が好調
- 製薬・治験の一部で特需的要素
- 軽作業、GMS（大型スーパー）、コールセンター等の一部業界が順調に推移
- 自動車業界の生産減はあるものの、当社においては影響が軽微でありシェア拡大の好機
- 採用はしやすい状況に

今後

- 雇用の維持とクライアントの安心感を最優先にコロナ対策を実施
- 業界の淘汰再編が進むことが予想される中、幅広い業種をカバレッジしている当社の強み（ワンストップサービス）を活かし、組織間の連携を強化した営業活動を展開
- 環境変化の影響を受けにくい包括契約の実現を通じ、シェア拡大を目指す

新型コロナウイルス感染症の影響と今後の展開②

不動産ビジネス

従前の綿密なリスク管理でマイナスの影響を最小限に、逆に今後の市況変動は好機

現状

マイナス影響

- 仕入を慎重に対応（デベロップメント・リノベーション関連）
- ホテル業者関連からの事業用地へのオーダー減
- 大手仲介業者の販売網縮小等によりリノベーション関連の成長が一時的に鈍化

プラス影響

- 大手デベロッパーからの事業用地へのオーダーに大きな変化はみられない
- 法人個人ともに資産処分が進む可能性があり、仕入環境の改善に期待

今後

- 不動産バブルが続きこれまで厳しい仕入環境にあった中、市況の変動が予測され、適正規模経営を進めてきた当社にとって攻勢の好機
- また、アセットマネジメント等、不動産金融関連ビジネスの基盤構築を進め、さらなる環境変化への準備を推進

新型コロナウイルス感染症の影響と今後の展開③

情報通信ビジネス

現状

マイナス影響

- ・ 端末販売台数の減少（店舗の時短等稼働制限、オンライン販売増加）

プラス影響

- ・ ARPU※が上昇傾向（巣ごもり消費の影響）
 - ・ 光回線、Wi-Fi等のインターネット環境ニーズの高まり
- ※ARPU … 加入者一人あたりの月間事業収入の平均額

今後

- ・ 激変する環境変化に対応していく店舗運営体制の構築と利益体質への変革
- ・ 投資回収フェーズ

その他（農業公園）

現状

マイナス影響

- ・ 最繁忙期[4～5月]に各自治体からの要請によりほぼ休園を余儀なくされ大きな痛手

プラス影響

- ・ 屋外施設という特徴から来園者は徐々に回復を示している

今後

- ・ これまでの自粛疲れや健康志向の高まり、GoToキャンペーン等を取り込み、Withコロナ時代に合った屋外パーク施設として存在感を高める

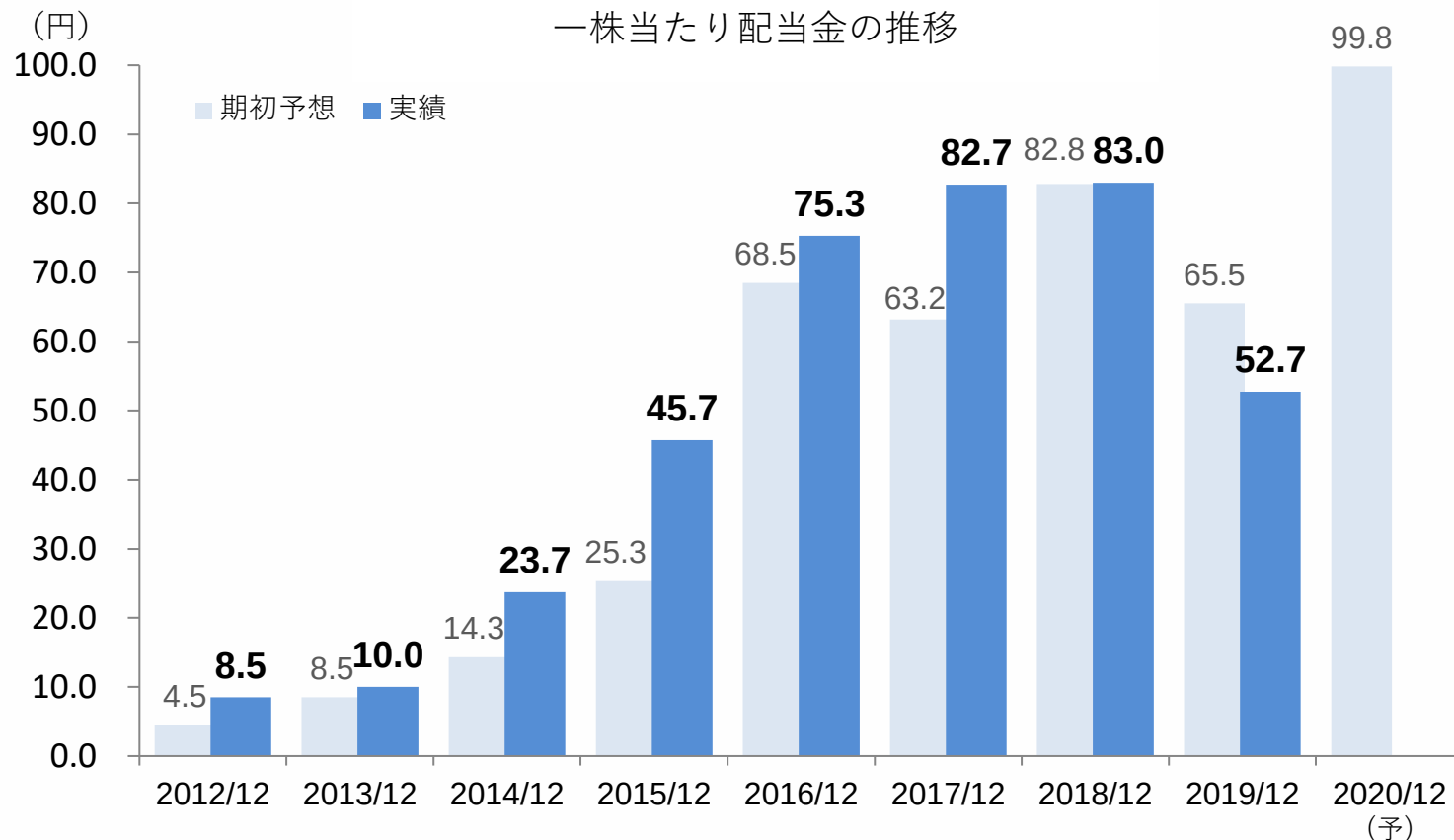
複数事業による業種分散がコロナ禍においても強みを発揮



安定経営体制を今後も堅持し、持続的成長の実現を目指す

株主還元

配当性向30%を目安とし、安定的かつ継続的な配当成長を目指す
(期初予想を変更していません)



※業績予想及び配当予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

人が生きるカタチ



Ⅲ. Appendix

ワールドホールディングス会社案内



主な関係会社

人材・教育ビジネス

人と仕事をつなぐ
～新しい“働く”カタチ～



情報通信ビジネス

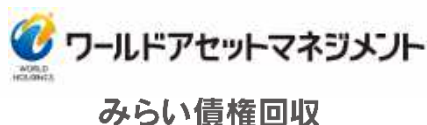
ITで人と人をつなぐ
～新しい“コミュニケーション”のカタチ～



その他 事業



新規事業



不動産ビジネス

人と住まいをつなぐ
～新しい“まちづくり”のカタチ～



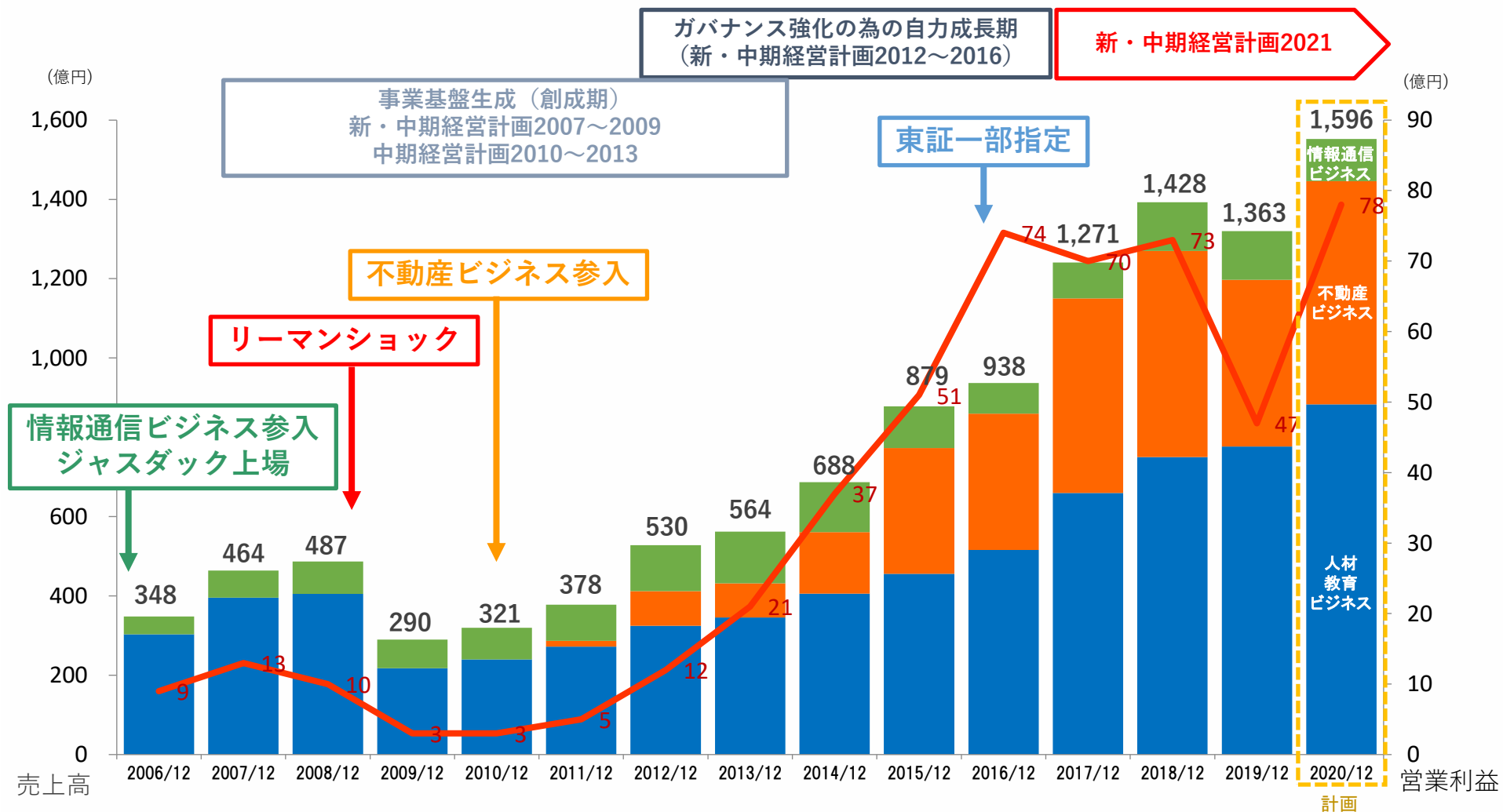
主な関係会社：37社
＜連結子会社33社・非連結子会社4社＞

沿革

青字：人材・教育ビジネス
 緑字：情報通信ビジネス
 橙字：不動産ビジネス



業績推移



人材・教育セグメントのビジネス領域

ものづくりを中心に幅広い領域をワンストップでカバー



研究・開発

R&D事業

設計・開発

テクノ事業

製造

ファクトリー事業

物流

ファクトリー事業

販売

セールス&マーケティング事業

アフター
サービス
テクノ事業

顧客にとっては
あらゆる分野の業務も
1社で対応できる
ニーズ対応力

メリット

働く側にとっては
入社の間口が広い、スキルアップ、
キャリアアップの方向性が豊富
広がる可能性

R&D事業

バイオ・化学
研究員、CRO

約1,000名

テクノ事業

設計・開発
エンジニア

約2,900名

ファクトリー事業

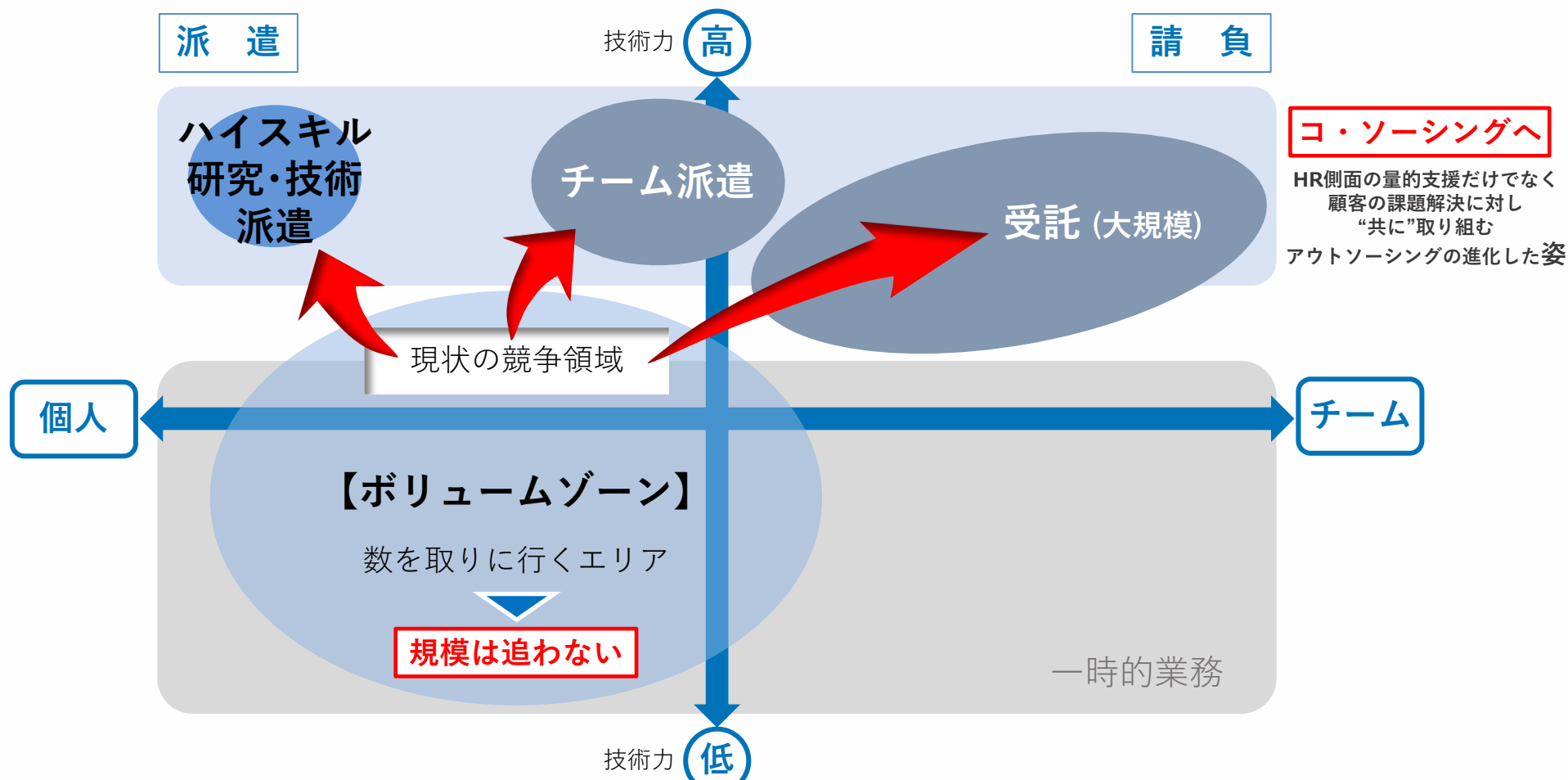
製造・物流
オペレーター

約16,000名

ものづくり人材領域 約**20,000**名の稼働人数 ※2020年6月末時点

人材・教育ビジネスの目指すポジション

人材育成への戦略投資により、ものづくり領域で **ブランドNo.1** へ



景気変動に左右されない高領域への進出、強い人材集団の形成

不動産セグメントのビジネス領域

適正規模にて拡大を図り、複数領域により経営を安定化

東北圏・首都圏・近畿圏・九州圏で、主要都市に特化した分譲マンションを開発



《2015年グッドデザイン賞受賞》
ブランド横濱馬車道レジデンシャル
ホテル・マンション
《神奈川県》

現物不動産

デベロップメント
〔 新築マンション 戸建 〕

不動産再生関連
〔 リノベーション
コンバージョン 〕

流通・仲介、プロパティマネジメント

全国で、リノベーション賃貸、仲介事業を展開

Before



After



不動産金融

〔 債権回収、アセットマネジメント(REIT、ファンド) 〕

情報通信セグメントのビジネス領域

モバイルショップ

九州地域最大級の店舗網

携帯電話ショップを、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、長崎県、沖縄県にて展開

- ・ Softbank ショップ
- ・ au ショップ
- ・ Y!モバイル ショップ

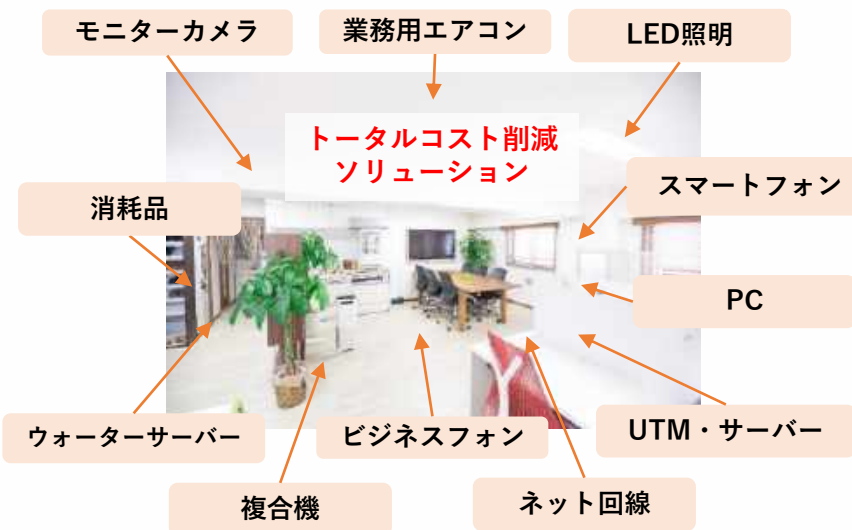
38店舗

2020年6月現在



法人ソリューション

企業向けに、各種商材の販売を通して、電力、通信費等のコスト削減提案を実施



コールセンター

個人・法人向けに
様々な商材を販売

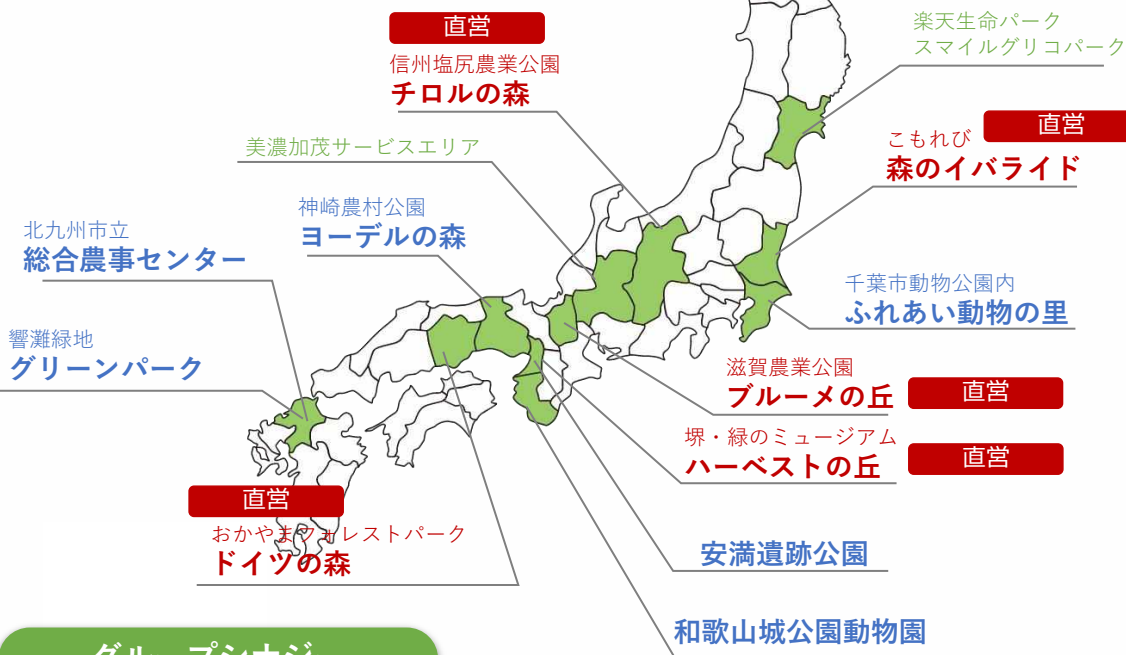


農業公園等の運営管理

全国 13か所で自然あふれる農業公園等を展開

各施設の地域に根付いた運営により
約100万人の年間入場者数（※直営5施設のみカウント）

直営施設5か所と指定管理・業務受託等 計13か所の運営



グループシナジー

雇用創出・地方創生

地域に根差した幅広い雇用創出と地域活性化による地方創生

新たなストックビジネス

入場者数の獲得に応じて安定した利益を生み出すストックビジネス



自家製のソーセージ
菓子、ビールなどの
製造・販売も行う

人が活きるカタチ



本資料に関するお問い合わせ

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、
その正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更される事があります。
万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、
弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。

株式会社ワールドホールディングス

広報IR室 西原 範朗

TEL 03-3433-6005

E-MAIL irinfo@world-hd.co.jp

URL <http://www.world-hd.co.jp/>